

公益財団法人書壇院
平成29年度事業報告

I	公益事業1 書道に関する普及啓蒙活動事業	
1	収蔵品の調査研究と貸出・公開	2頁
2	講演会・ギャラリートーク	3頁
3	展覧会	3頁
II	公益事業2 書道に関する支援・能力開発事業	
1	書道に関する技能能力の審査・認定	4頁
2	書道教育研究誌の頒布	5頁
3	次代を担う指導者の育成	7頁
III	収益事業	
1	事務所床賃貸事業	9頁
2	書壇院ギャラリー・書壇院ホール賃貸事業	9頁
IV	その他	
1	懇親会等	9頁

I 公益事業1 書道に関する普及啓蒙活動事業

1 収蔵品の調査研究と貸出・公開

1-1 企画維持管理

- (1) 書壇院で受け入れた新規購入品及び寄贈品の整理・配架
- (2) 苞竹記念文庫の書庫・収蔵品の整理・管理
 - ① 閲覧図書管理（本の破れ等の修理を始め、現在も継続中である。）
 - ② 新収蔵品の収蔵番号のデータ入力は、現在も継続中である。
 - ③ 旧収蔵品データ入力終了後の不備・不明の調査・訂正は終了した。
 - ④ 硯の点検・修理は継続中である。

(3) 書壇院ギャラリー展示の実施

- ① 第104回展（企画展示）中国漢画像石拓本展
—画像石の世界を楽しむ—
- ② 第105回展（企画展示）書壇院ギャラリー開館5周年記念
書壇院収蔵拓本名品展 —原拓旧本へのいざない—
- ③ 第106回展（平常展示）「吉田苞竹展」

1-2 調査研究

- (1) 明治以前の日本の書の拓本の調査を継続した。
 - ① 釈文の採録を継続中である。
 - ② 粗読みを継続中である。
- (2) 鐘銘拓本の整理研究は保留状態。

1-3 展示事業

- (1) 企画展示は以下のとおり実施した。
 - ① 第104回展
中国漢画像石拓本展 —画像石の世界を楽しむ—
会期 平成29年4月11日（火）～6月4日（日）
前漢・後漢の画像磚を含む画像石拓本20点（47種）を展示。出土地は陝西・山東・河南・四川・江蘇・甘肅の各省。
 - ② 第105回展
書壇院ギャラリー開館5周年記念 書壇院収蔵拓本名品展
—原拓旧本へのいざない—
会期 平成29年11月7日（火）～平成30年1月28日（日）
吉田苞竹先生購得の拓本を始め、書壇院収蔵の拓本の中から名品・優品を選びすぐり展示。

秦代から唐代にいたる碑の拓本45点（整本（全搨本）22点、剪装本23点）。

(2) 平常展示を実施した。

① 第106回展 「吉田苞竹展」

会期 平成30年2月21日（水）～3月25日（日）

2 講演会・ギャラリートーク

2-1 講演会

第23回文化講演会を実施した。

演題 「印の種類と印の捺し方」

講師 河野 隆 先生

（大東文化大学教授・日展会員）

日時 平成29年6月4日（日）

会場 国立近代美術館講堂

参加者 150名

会費 1,500円（資料代を含む）

2-2 ギャラリートーク

企画展示開催に付随して以下のとおり実施した。

平成29年5月16日（火）

平成29年11月21日（火）

平成30年1月16日（火）

3 展覧会

(1) 第10回 「書壇院 日本文の書」展

会期 I 平成29年6月14日（水）～6月25日（日）

II 平成29年6月28日（水）～7月9日（日）

III 平成29年7月12日（水）～7月23日（日）

会場 書壇院ギャラリー

出品者 書壇院展審査会員

I…43名 II…43名 III…44名 計130名

(2) 第10回 「書壇院展院友 日本文の書」展

会期 I 平成29年8月30日（水）～9月10日（日）

II 平成29年9月13日（水）～9月24日（日）

III 平成29年9月27日（水）～10月9日（月・祝日）

会場 書壇院ギャラリー

出品者 書壇院展院友

I…31名 II…31名 III…31名 計93名

(3) 第84回書壇院展

会 期 平成29年12月5日(火)～12月11日(月)

会 場 東京都美術館(東京・上野公園)

出品者 全国公募による出品者 617名

審査会員 213名

院 友 191名

計 1,021名

(4) 第84回書壇院学生展

会 期 平成29年12月5日(火)～12月11日(月)

会 場 東京都美術館(東京・上野公園)

出品者

全国公募による小学生 553名

全国公募による中学生 138名

全国公募による高校生 51名

計 742名

(5) 第57回書壇院竹心展

会 期 平成30年3月20日(火)～3月25日(日)

会 場 東京銀座画廊・美術館(銀座貿易ビル5F)

出品者

書壇院審査会員 162名

書壇院展院友(特別選抜者) 10名

計 172名

II 公益事業2 書道に関する支援・能力開発事業

1 書道に関する技能能力の審査・認定

各昇位試験及び書道・南画教授認定試験を実施した。

(1) 『書壇』漢字・かな・南画昇位試験

実施 平成29年6月7日(水) 受験者16人 各位合格者15人

(2) 『書壇』玄位・妙位・雪位試験

実施 平成29年8月7日(月) 受験者111人 各位合格者77人

(3) 書道・南画教授認定試験

実施 平成29年9月7日(木) 受験者15人 認定者14人

(4) 『書壇』 上位・極位・雅位試験

実施 平成30年3月7日(水) 受験者217人 合格者99人

2 書道教育研究誌の頒布

2-1 書道教育研究誌である月刊『書壇』及び月刊『学生書壇』の刊行について

(1) 書壇院は、公益財団法人としての理念を体し次の諸事項を行った。

- 『書壇』・『学生書壇』の誌代を次のようにした。

『書壇』 1部 700円(送料・消費税込)

『学生書壇』 1部 400円(送料・消費税込)

- 『書壇』購読者は、漢字・かな・南画・日本文・篆刻のすべての部門の出品を無料とした。

- 『学生書壇』購読者は、漢字・かな・硬筆すべての部門の出品を無料とした。

- 『書壇』協力員、『学生書壇』協力員の設定

過去1年間(4月号～3月号)に購読又は取扱った冊数がある一定以上に達した指導者(あるいは取扱い責任者)を協力員として姓号(氏名)を誌上に発表し、協力を讃えた。

(2) 『書壇』について

- ① 月例掲載記事は平成28年度に準じて行った。

- ② 表紙は書壇院蔵の「古硯」とし、裏表紙は、書壇院蔵の作品に解説を添えて載せた。

- ③ 「同人参考手本」

条幅・半紙共、読者の競書出品の参考となるようにした。

また、2尺×6尺・3尺×4尺の参考手本は、書壇院展・毎日書道展への取り組みを身近なものとし、制作意欲を刺激し、出品数の増加を図る目的で掲載した。(漢字・かな・日本文)

- ④ 「漢字規定」

上位・準上位の課題は引き続き唐詩を、玄位～六位及び新規は五言句の参考手本を掲載した。小字の課題は引き続き古典と近藤秋篁書の臨書を取り入れた。

- ⑤ 「かな規定」

極位・準極位は和歌又は俳句を、妙位～六位及び新規は参考手本を掲載した。

- ⑥ 「南画規定」
南画初学講座として参考手本と解説を載せた。
- ⑦ 「漢字臨書規定」
古典研究として読者の作品制作の糧となるような古典を選び、参考手本（条幅・半紙）と解説を載せた。
- ⑧ 「かな臨書規定」
極位～二位は古典の臨書とし、三位～六位はその中の一部分を参考手本により臨書した。
- ⑨ 「日本文の書」
参考手本（半紙規定・条幅規定）を掲載し、規定と随意を募集した。
- ⑩ 「篆刻入門」
参考手本を掲載し、規定と随意を募集した。
- ⑪ 随時掲載記事
「私の好きな古典」、「展覧会案内」、「展覧会報告」、「書壇院日記」その他。
- ⑫ 「審査会員遊苑」
『書壇』同人以外の審査会員を対象に毎月課題を設定し、作品制作をすることで書の技倆の向上に資するようにした。（漢字・かな・日本文）
- ⑬ 表具店、文房四宝店等の広告をなるべく多く掲載し、購読者への情報提供の拡大を図った。
- ⑭ 毎月の出品票の下にその月の清書締切日時を明記し、遅着のないよう注意を喚起した。

(3) 『学生書壇』について

- ① 月例掲載記事は平成28年度に準じて行った。
- ② 表紙は泗水昇鼎図より取りあげた。
- ③ 表紙裏に吉田苞竹の書作品を載せた。
- ④ 「鑑賞作品」は古典の一部を大きく掲載し、やさしい解説を添えた。
- ⑤ 掲載手本
 - 「毛筆部」 幼児、小1、小2、小3、小4、小5、小6、中1、
中2、中3、高校 （11種）
 - 「かな部」 かな中学、かな高校 （2種）
 - 「硬筆部」 幼児、小1、小2、小3、小4、小5、小6、
中学・高校 （8種）

⑥「特待生紹介」は従来どおり掲載した。

⑦ 毎月の出品票の下にその月の清書締切日時を明記し、遅着のないように注意を喚起した。

2-2 『書壇』『学生書壇』年間発行部数について

両誌に今後も改善を加え、魅力ある教育研究誌となるよう一層努力する。
平成29年度の売上げは以下のとおりである。

『書壇』年間売上部数 32,316部 対計画比 1,684部減

『学生書壇』年間売上部数 32,056部 対計画比 944部減

3 次代を担う指導者の育成

3-1 書道教室の継続実施

書道教室（漢字・かな・水墨画（南画））を月2回（原則として第2週・第4週）書壇院ホールにおいて継続実施した。

書道教室（漢字） 水曜日・金曜日

書道教室（かな） 火曜日・土曜日

書道教室（水墨画（南画）） 土曜日

書道教室（子ども） 木曜日・金曜日・日曜日

3-2 書道講習会の開催

書道講習会を年4回（日本文2回、篆刻・水墨画（南画）各1回）実施した。

(1) 日本文

実施日 第1回 平成29年7月1日（土）

第2回 平成29年7月2日（日）

講師 渡邊 溪山 先生（書壇院展日本文部審査会員）

会場 書壇院ホール

参加費 2,000円

参加者 第1回…18名 第2回…13名

(2) 水墨画（南画）

実施日 平成29年10月7日（土）

講師 岩崎 桂花 先生（書壇院展南画部審査会員）

会場 書壇院ホール

参加費 2,000円

参加者 12名

(3) 篆刻

実施日 平成30年2月17日（土）

講師 鈴木 青雨 先生（書壇院展漢字部審査会員）

会 場 書壇院ホール
参加費 3,000円（印材を含む）
参加者 13名

3-3 書初め会の継続実施

実施日 平成30年1月6日（土）
会 場 書壇院ホール、書壇院前広場
内 容 大作揮毫パフォーマンス、参加者による書初め体験。
パフォーマンス作品は森タワー1階ウィンドウに展示。
参加者 約90名

3-4 「若竹」活動の一層の活発化

① 若竹交流会

第1回 実施日 平成29年8月11日（金・祝日）
講 師 佐藤 節子 先生（書壇院展かな部審査会員）
参加者 11名

第2回 実施日 平成29年12月10日（日）

会 場 第84回書壇院展会場（東京都美術館）

内 容 書壇院展に出品した自分の作品の紹介と、指導者や参加者
による作品批評。

参加者 約20名

② 第3回若竹作品発表会

実施日 平成29年8月8日（火）～8月27日（日）

会 場 書壇院ギャラリー

内 容 半紙サイズ以内の作品。

出品数 210点

発表会終了後は、作品をインターネット展として書壇院ホームページの若竹広場に掲載した。

3-5 他団体の育成事業への指導協力・支援

- ① 鶴岡市朝陽第二小学校（吉田苞竹の母校）の書初め会への支援を行った。
- ② 毎日書道展への出品に協力した。
- ③ 高野山競書大会への出品に協力した。
- ④ 国際高校生選抜書展への出品に協力した。

Ⅲ 収益事業

1 事務所床賃貸事業

賃貸人公益財団法人書壇院と賃借人森ビル株式会社が契約締結した「建物賃貸借契約書」に基づき、本院が所有する事務所（港区六本木1-9-10アークヒルズ仙石山森タワー27階部分）床面積843.13㎡を賃貸した。

2 書壇院ギャラリー・書壇院ホール賃貸事業

公益財団法人書壇院「書壇院ギャラリー」「書壇院ホール」借用規程に基づき、賃貸事業を実施した。

実績 書壇院ホールB（午後）12回

Ⅳ その他

1 懇親会等

展覧会・講演会実施に付随して懇親会等を開催した。

- ① 「第23回文化講演会」懇親会 参加者 37名（講師も含む）
- ② 「第84回書壇院展」親睦会 参加者 78名
- ③ 「第57回竹心展」懇親会 参加者 92名

事業報告の附属明細書

- 1 重要な事項はすべて事業報告に記載した。